

## チヨースーと聖母マリア(2)

柴田竹夫

### 1

チヨースー (Geoffrey Chaucer, 1340?–1400) の作品における聖母マリアについて、マリアを表すのに主として次の4つの表現の仕方がある。すなわち、(1)「処女と母性」の表現、(2)「女王」の比喩、(3)象徴としての「百合の花」、(4)象徴としての「やぶ」である。この4つの表現の仕方の内、(1)「処女と母性」の表現については、拙稿『チヨースーと聖母マリア(1)』<sup>1)</sup>において、既に論じた。本稿においては、聖母についての残り3つの表現の仕方を考察し、「処女と母性」の表現と合わせて、チヨースー作品における聖母像を探ることとする。

### 2

まず「百合」(“lilie”)の花の考察から始める。チヨースー作品において、“lilie”n.は、15例 (lilie 6, lilies 2, lilye 2, lylie 1, lyllye 4) あって、その内次の1例が聖母マリアと関わる。つまりそれは聖母の名称の働きを示している。

(1) “of thee and of the *white lylie flour* (Pro PrT 461)<sup>2)</sup>

この例において、“lylye”<sup>3)</sup>は、聖母マリアの象徴で、純潔 (purity) を表し、“lylye flour”<sup>4)</sup>という表現は聖母マリアをさす。“flour”に関しては、“floures flore”(“An ABC” 4)という表現が、聖母マリアに対してよく使われる epithet であるが、“An ABC”の Deguilleville の原典にはみられない。<sup>5)</sup>この epithet のみならずチョーサーは、“An ABC”において聖母マリアへの epithet を原典以上に使用している (7種類) という事実<sup>6)</sup>は、7種の epithet を通して見ると、チョーサーの聖母マリアに対する “devotional” な態度をさし示していることがわかる。また “flour” に関しては、“fresh flour”(“An ABC” 159) という聖母の表現もある。つまり “lilie-flour” は、処女 (“maide,” “maiden,” “virgin”) であって、完全な「純潔」(cf. SN Pro. 87-88) のマリアの象徴なのである。

次に “lilie” の epithet を検討する。それは “white” のみである。マリアを表す “lilie” の epithet としての「白」色を考えると、それは purity, holiness<sup>7)</sup>を表し、「白い百合」とは「純潔」のマリアの象徴なのである。ヤコブス・デ・ウォラギネの『黄金伝説』(*Legenda aurea*) に依れば、死の床にあるマリアのもとにイエスが現れ、聖母の魂がイエススの腕の中に飛び込むと、聖母は、殉教者である赤い薔薇と、天使と乙女と証聖者 (男子に対してのみ用いられ、すぐれた聖性の生涯によって信仰を証明した人) たちの群れである「白い百合」の花にとりかこまれる。<sup>8)</sup>つまり「白い百合」はすぐれた「聖性」を示しているのである。

チョーサー作品における象徴としての “white lilie” は、聖性の「純潔」の聖母マリアの姿を示し、それは聖母にまつわる「処女と母性」の表現における “maide”, “maiden”, “virgin” の epithet が示す処女マリア像と重なる。

### 3

次に「やぶ」(“bush”) の考察に入る。チョーサー作品において、“bush”<sup>9)</sup>n. は17例 (bush 3, bushes 1, busk 2, buskes 2, bussches 1, bussh 7, bussches 1) あり、その内次の3例が聖母マリアに関わる。

- 1) “O *bush unbrent*, brennynge in Moyses sighte,” (Pro PrT468.)
- 2) “Moises, that saugh *the bush with flawmes rede*” (ABC 89)
- 3) “Thou art *the bush* on which ther gan descende.” (ABC 92)

この3例における“bush”の働きをみると、次の様である。

- 1) 祈願 (1例)
  - (1): 助け (聖的)
- 2) 聖母の名称 (2例)
  - (2), (3)

3例ともが聖的なコンテクストにおいて使用されている。つまりマリアは、霊的な救いを求められている。

“bush”には epithet が2種類ある。

- 1) “unbrent”<sup>10)</sup> (1)
- 2) “with flawmes”<sup>11)</sup>rede” (2)

「燃えるやぶ」については、『出エジプトの書』(3.2)にこうある。

主のみ使い(神ご自身のこと)は、やぶのなかから、火のほのおのような形でかれにおあらわれになった。モイゼがながめると、やぶは火でもえあがっていたが、もえつきない。

また“bush”にまつわる“An ABC”の次の箇所は(11.89-94)は、その上に聖霊(Holy Spirit)が降り立つ“bush”が、“unwemmed (=unstained) maidenhede”のしるしであることを明らかにしている。

Moises, that saugh *the bush with flawmes rede*  
*Brenninge*, of which ther never a stikke brende,  
 Was signe of thin *unwemmed maidenhede*.  
 Thou art the bush on which ther gan descende  
 The Holi Gost, the which that Moyses wende

Had ben a-fyr, and this was in figure.

更に“bush”にまつわる *The Prioress's Prologue* の次の箇所 (ll. 467–72) において、聖霊を宿すマリアが賛美される。

O mooder Mayde, O mayde Mooder free!  
O *bussh unbrent, brennynge* in Moyses sighte,  
The rauyshedest doun fro the Deitee,  
Thurgh thyn humblesse, the Goost that in th'alighte,  
Of whos vertu, whan he thyn herte lighte,  
Conceyved was the Fadres sapience,

この引用の1.468において、次のことに注目する必要がある。“bush”が“unbrent”であると同時に“brennynge”というパラドックスの状態で並置されていることは、このパラドックスによってチョーサーは、聴衆（読者）に対し“bush”の本質を端的に提示しているのである。

“bush”の本質とは何かというと、燃えつきることのない「燃えるやぶ」（“brennynge bush”）は、聖母の the Immaculate Conception（無原罪の御宿り）の象徴<sup>12)</sup>、anticipation of the Virgin Birth<sup>13)</sup>としてあることである。赤い炎をあげて燃えるやぶの持つ赤色の象徴的な意味を考えると、キリスト教的には赤色は purification や divine love<sup>14)</sup>を表す。つまり「燃えるやぶ」は、つきることのない聖愛に満ちた、純潔の神の母マリアの象徴なのである。

#### 4

最後に「天の女王」（“queene”）の比喩を検討する。チョーサー作品において、“queene=queen”<sup>15)</sup> n. は、138例（queen 25, queene 69, queenes 2, quen 1, quene 38, quenes 3）あって、その内次の9例がチョーサー作品における聖母マリアと関わる。

- (1) "Help, for hir love that is of *hevene queene!*" (MerT 2334)
- (2) "My konnyng is so wayk, *O blisful Queene,*" (Pro PrT 481)
- (3) "Sire hoost, in feith, and *by the hevenes queene,*" (CYTA 1089)
- (4) "*Almighty and al merciabile queene,*" (ABC 1)
- (5) "Here merci of you, *blisful hevene queene,*" (ABC 24)
- (6) "Dowte is ther anoon, *thou queen of misericorde,*" (ABC 25)
- (7) "Now, *queen of comfort,* sith thou art that same" (ABC 77)
- (8) "*Queen of comfort,* yit whan I me bithinke" (ABC 121)
- (9) "With thornes venymous, *O hevene queen,*" (ABC 149)

これら9例において，“queene”の比喩はどのような働きをしているかという  
と、次の3つの働きがある。

- 1) 祈願 (2例)
  - (2): 助け (聖的) (7): 救い (聖的)
- 2) 聖母の名称 (5例)
  - (4), (5), (6), (8), (9)
- 3) 誓言 (emphatic assertion, 世俗的誓言)(2例)
  - (1), (3)

“queene”の比喩の働きをみると、9例中7例(祈願2例, 聖母の名称5例)  
にわたり, “queene”が聖的コンテクストにおいて使用されていることがわか  
る。これら7例は本質的にはすべて聖母に対する霊的な救いを求めているもの  
である。

マリアが, “queene”(天の女王)と呼ばれるのは, それではなぜかと言うと,  
それは, 次の2つの意味においてである。

- (1) She excells all other saints.
- (2) She shares in a subordinate and analogous way Christ's rule<sup>16)</sup>.

この2点に関して, 第一点は, マリアが「神の母」であることにより, 他の  
聖人の上に立ち, 更に第2点は, 神への「仲介者」として人々のために神へ  
の執り成しをし, 人々を助け, 救うという Mediatrix としての働きをマリア

がなしていることである。マリアにまつわる「処女と母性」の表現のところで論じた「神の母」と「仲介者」としてのマリアの役割が“queene”の比喻からも見える。

マリアの天の女王の地位 (queenship) に対する聖母の根拠は 2 つある。一つは、今述べた “divine motherhood”, 今一つは “right of conquest” である<sup>17)</sup>。キリストは、Calvary (受難) の征服により死に勝利したと同様に、マリアも死を克服した勝利者であり、キリストと並ぶ権力を持つ。マリアは「神の母」として、その魂は肉体と共に被昇天し、死を克服し、死後も「天の女王」として「仲介者」(Medeator, Medeatix) の営みをはかり続けるのである。その時「天の女王」としてのマリアの御力は、“Mercy” として働く。このことは、“queene” の epithet の吟味を通して明らかになる。

それでは “queene” の epithet の吟味に移る。“queene” の epithet には次の 6 種類がある。すなわち(1) “hevene”<sup>18)</sup> (1, 3, 5, 9 例目の計 4 例), (2) “blisful”<sup>19)</sup> (2, 5 例目の計 2 例), (3) “almighty” (4 例目), (4) “merciabie”<sup>21)</sup> (4 例目), (5) “of misericorde”<sup>22)</sup> (6 例目), そして(6) “of comfort”<sup>23)</sup> (7, 8 例目の計 2 例目) の 6 つである。

“queene” の epithet である “hevene” (4 例) とは、勿論「聖母被昇天」(Assumption of Mary) をふまえてのことである。「被昇天」<sup>24)</sup> とはマリアが靈魂と肉体とともに天国に入ったという教義」であり、

マリアは恩恵に満ちた者であったので罪の結果、すなわち死後の肉体の腐敗から守られ、その肉体が幸福の状態に入ることを終わりの日まで延期されるのをまぬがれた

のである。聖書において聖母被昇天の明白な記述はないけれども、古くから教父たちは、聖母被昇天の正当性を次の様に教えてきた。<sup>25)</sup>

The fact that Christ loved Mary and united her in His mysteries makes it proper that the woman He had created sinless, that the

virgin whom He had chosen for His mother, be, like Him, completely triumphant over death in her Assumption as He had triumphed over sin and death in His Resurrection.

神の母として、死に勝利したマリアは、被昇天し、“hevene queene”（「天の女王」）として人々の救いにあづかるのである。

“queene” の epithet のうち、“hevene”, “almighty”, “merciabile”, “of misericorde” の5つ、つまり “blisful” 以外は、マリアにまつわる「処女と母性」の表現のところで考察した epithet, すなわち “maide”, “maiden”, “virgin”, “moder”, “lady”, “Marie” の6つの呼称（称号）にまつわる epithet と共通するものはない。つまり “queene” の epithet において、“blisful” 以外は “queene” のみにかかる epithet なのである。これは何を意味するのであろうか。それは聖母マリアの示される “merici=mercy”, すなわち “Compassionate sorrow at another’s misfortune together with a will to alleviate it”<sup>26)</sup> つまり「憐れみ」が “queene” としての御力の第一の現れとしてあることを意味する。聖書において、例えば次にみられる様に、“merci” は神の大いなる属性なのである。

主、主、いつくしみとあわれみにみちて、心がひろく、めぐみとまことにすぐれた神

（『出エジプトの書』34.6）

主は、<sup>いつくしみ</sup>慈愛とあわれみ、  
怒るにおそく、愛にみちたもの。

（『詩篇』102.8）

あなたたちは、おん父が慈悲深くあらせられるように、慈悲深いものであれ。

（『ルカによる聖福音書』6.36）

あわれみのある人はしあわせである。かれらもあわれみをうけるであろうから。

(『マテオによる聖福音書』 5.7)

“queene” の epithet のうち, “merciable”( 4 例目), “of misericorde”( 6 例目), “of comfort”( 7, 8 例目) の 3 つは, 聖母の “merci” にかかわるものであり, 4 例目の “merciable” は “almighty” と並置せられ, “merci” を示す聖母は, キリストに並ぶ御力を持つことを表している。

カトリック神学は, 聖母の “merci” に関して次の様に教える<sup>27)</sup>。

In a perfect society the powers of government are legislative, judiciary, and executive. Theologians differ in their application of the threefold power to the queenship of Mary. All agree that Mary’s queenly power is at least in the legislative category, that is, that the inner law of the kingdom of Christ is grace, and that she is the royal dispenser of grace. About her share in the executive and judiciary aspects there is no agreed opinion, except that punishment (coercive falls under executive) is not part of Mary’s role. The voice of Christian tradition is that Mary rules with a mother’s love.

天の女王として聖母は, キリストの王国にあって, 神の恩恵 (grace)<sup>28)</sup> の執り成しを行ない, 人々に罰 (punishment) を与えるのではなく, 聖母の愛をもって人々に “merci” を施すのである。聖母の営みは, 罰を与えることではなく, 「憐れみ」を与えることにある。

チョーサーの “An ABC” において, “merci” は12回, “comfort” は4回, “misericorde” は2回, “merciable” は2回, “pitee” は2回, 更に “of pitee welle” (憐れみの泉) といった聖母の “merci” に関わる語句が多く見られる。“An ABC” は, 聖母の「憐れみ」を求めた詩である。また *The Second Nun’s Prologue* (29–77) は, マリアに対する救いを求める祈りの言葉であって, そ



の37行目において、聖母は“welle of mercy”（憐れみの泉）と呼ばれている。

“queene”のepithetのうち、“blisful”（2,5例目）はというと、他のepithetとは異なる。つまり“blisful”のみが、聖母の「処女と母性」の表現における“maide”, “maiden”, “virgin”, “moder”, “lady”, そして“Marie”各々のepithetと共通している。“lilie”及び“bush”のepithetとして“blisful”はないけれども、その他の聖母の呼称（称号）において、“blisful”は、聖母のepithetの共通項としてあると言える。

拙稿『チョーサーと聖母マリア(1)』でも触れたが、聖母のepithetの“blisful”<sup>29)</sup>とは、マリアが彼女の母の胎内に身ごもった瞬間から神の子イエスのゆえに神の恩恵で満たされ、原罪を免れ（「無原罪の御宿り〔御孕り〕」(the Immaculate Conception)<sup>30)</sup>、そして神の子イエスの母として選ばれ（『ルカによる聖福音書』1.28）、すべての天使や聖人を越えて、神の恩恵を受け、特別な権利、力を授かることを意味する。かかる“blisful”（恩恵に満ち）な聖母マリアは、神によって授けられた特権、力をもって人々に“merci”を施し、「天の女王」として「仲介者」（Mediatrix）の役割を果たす。“Here merci of you, blisful hevene queene”（“An ABC” 24）の一行は、まさにこの役割を果たす聖母マリアに対する切なる救いの希求を端的に示す。

## 5

象徴としての「百合の花」（“lilie”）は、「純潔」の聖母を示し、聖母にまつわる「処女と母性」の表現における“maide”, “maiden”, “virgin”の聖母の呼称（称号）にかかる各epithetが示す処女マリアと共通したものがあある。象徴としての“bush”については、「燃えるやぶ」（“brennynge bush”）が、the Immaculate Conceptionの象徴として、そしてつきることのない聖愛に満ちた純潔の処女マリアの象徴としてある。

「天の女王」（“queene”）の比喩からは、聖母の示される“merci”が「天の女王」としての御力の第一の現れとしてあり、聖母の基本的なepithetである“blisful”（恩恵に満ち）な神の母が仲介者（Mediatrix）としてあること

が理解される。つまり“lilie”と“bush”からは純潔の処女マリアの姿が、そして“queene”からは、“blisful”な Medatrix の神の母としてのマリアが姿を現す（表1, 2, 3 参照）

〈表1〉

	呼称の働き	epithets
1 ) lilie	聖的	white
2 ) bush	聖的	unbrent, with flawmes rede
3 ) queene	聖的	hevene(s), blisful, almighty, merciable, of misericorde, of comfort

〈表2〉 チョーサー作品における聖母の各呼称の出現回数

	祈 願		誓 言		聖 母 の 名称として	聖母として
	聖	俗	聖	俗		
1 ) lilie	0	0	0	0	1	1/15 (6.7%)
2 ) bush	1	0	0	0	2	3/17 (17.6%)
3 ) queene	2	0	0	2	5	9/138 (6.5%)

〈表3〉 チョーサーの3作品における聖母の各呼称の出現回数

	ABC	PrT	SN	各呼称において出現する 『カンタベリー物語』の話の数
1 ) lilie	0	1	0	1
2 ) bush	2	1	0	1
3 ) queene	6	1	0	3

ABC = “An ABC” (製作年 : before 1368)

PrT = *The Prioress’s Prologue and Tale* (製作年 : after 1373)

SN = *The Second Nun’s Prologue and Tale*

(製作年 : before 1386-7)

(なおこれら3作品は、チョーサーにおいて聖母マリアとの結び付きが最も深い作品である。)

## 6

拙稿『チョーサーと聖母マリア(1)』において、聖母にまつわる(1)「処女と母性」の表現に関して、聖母の呼称（称号）として“maide”, “maiden”, “virgin”, “moder”, “lady”, “Marie”を、そして本稿においては、聖母にまつわる(2)象徴としての“lilie”, (3)象徴としての“bush”, そして(4)“queene”の比喩に関して、聖母の呼称として“lilie”, “bush”, “queene”を考察してきた。その結果、各々の呼称の働きとそのepithetの吟味を通して、基本的に次のことが言える。“lilie”, “bush”は純潔の処女マリアに関わり, “maide”, “maiden”, “virgin”は, “blisful”な処女にして母性のマリアに, そして“moder”, “lady”, “queene”は, “blisful”な処女にしてかつMedatrixの神の母マリアに関わる。そして“Marie”は, 他のすべての呼称（称号）を統合した機能を持つ呼称（称号）としてあると言える。

聖母マリアは、チョーサー作品において、様々に表現され、様々な呼称（称号）で人々に親しく呼ばれる。そしてその様々な呼称（称号）においてマリアは、それに応じた聖なる姿を現す。しかしその姿は, “Marie”の呼称において統合した姿で見られる様に, “blisful”な, 純潔の, 人々から“Merci”を求められる, Medatrixとしての神の母, 聖母マリアに収斂する。これがチョーサー作品における聖母像として結論づけられる。

## 注

- 1) 柴田竹夫『チヨースーと聖母(1)』、『神戸親和女子大学英語英文学』第16号，(神戸親和女子大学英語英文学会) 94-113 頁。
- 2) 聖母の呼称の引例は，Larry D. Benson, *A Glossarial Concordance to the Riverside* (New York: Garland Publishing, 1993) にもとづく。チヨースー作品の引用は，Larry D. Benson (ed.) *The Riverside Chaucer*, 3rd ed. (Boston: Houghton Mifflin, 1987) に依る。引例文中斜字体は筆者自身のもをを表す。引用文中括弧内の数字は行数を表す。
- 3) “A person of great fairness or purity; a fair lady, the Virgin Mary, Christ, etc.” (*MED* 2. [ a ] 初出 c 1250, *CT. SN. G. 87*) “lily” 2: purity, (connubal) chastity, heavenly bliss (At de Vries, *Dictionary of Symbols and Imagery*, 2nd ed. [ Amsterdam: North-Holland Publishing, 1976 ], p. 499) Cf. L. D. Benson, p. 914, note to l. 461; *The Second Nun's Prologue*, l. 27.
- 4) “lilie-flour” n.: “the Virgin Mary” (*MED* [ d ] 初出 [ c1390 ] *CT. Pr. B. 1651* [ vll 461 ] )
- 5) L. D. Benson, p. 1077, note to l. 4.
- 6) L. D. Benson, p. 1076.
- 7) 1. purity, chastity, temperance, virginity; 2. holiness, spirituality, perfection (At de Vries, p. 499) cf. *The Second Nun's Prologue*, 27
- 8) ヤコブス・デ・ウォラギネ著，前田敬作，今村孝訳『黄金伝説』第3巻(京都：人文書院，1984年)，191頁。
- 9) “the burning bush seen by Moses on Mount Sinai [ Ex. 3.2 ] ; also, this bush as a symbol of the Virgin Mary” (*MED* 2. [ 6 ] 初出 a1325 [ c1250 ], [ c1390 ] *CT. Pri. B. 1658* [ VII 468 ] )
- 10) “Not burnt or consumed by fire” (*OED* 1 初出 c1290)
- 11) “A small quantity of blazing vapor; a flame” (*MED* 1. 初出 c1375, c1450 [ c1370 ] *ABC* 89)
- 12) L. D. Benson, p. 944, note to ll. 114, 118. Cf. *SN Pro* VIII. 37.
- 13) *Ibid*, p. 914, note to l. 461.
- 14) “red” 4; 6 (At de Vries, p. 382) Cf. *The Second Nun's Prologue*, 27
- 15) “A queen in the supernatural realm: the Virgin Mary” (*MED* 2. [ a ] 初出 a1150 [ c1125 ], c1450 [ c1370 ] *ABC* 25 )
- 16) William J. Mc.Donald (ed.), *New Catholic Encyclopedia* (Washington: The Catholic Univ. of America, 1967), “Mary, Blessed Virgin,

- Queenship of” の項。
- 17) *Ibid.*, 同項。
  - 18) “The abode of God, heaven, paradise” (*MED* 1a. [ a ] 初出 a 1150 [ OE ], [ c1395 ] *CT. G.* 1089 [ 3 例目 ])
  - 19) “Full of the bliss and glory of heaven, glorious ; glorified, transfigured, beatified, sanctified” (*MED* 2. [ a ] 初出 c1225 [ ? c1200 ] ); “blessed, holy, sacred” (*MED* 2. [ b ] 初出 c1225)
  - 20) “Almighty, omnipotent” (*MED* 1 初出 c1225)
  - 21) “Forgiving ; merciful toward sinners, enemies, the vanquished” (*MED* [ a ] 初出 a1250)
  - 22) “The quality of compassion, mercy, pity” (*MED* 1. [ a ] 初出 c1230 [ ? a1200 ], c1450 [ c1370 ] *ABC* 25 [ 6 例目 ])
  - 23) “A Source of relief, consolation, or gratification ; a comforting fact or thought” (*MED* 2. [ b ] 初出 a1325 [ c1280 ], c1450 [ c1370 ] *ABC* 77 [ 7 例目 ])
  - 24) 『カトリック小事典』(東京：エンデルレ書店，昭和61年)，「被昇天」の項。民間伝承における被昇天については、『黄金伝説』第3巻，186～233頁参照。
  - 25) *New Catholic Encyclopedea*, “Assumption of Mary” の項。
  - 26) *Ibid.*, “Mercy” の項。Cf. “Mercy of God” : The divine kindness and compassion to men, especially God’s patience with sinners and His readiness to forgive. (*Ibid.*, “Mercy of God” の項)
  - 27) *Ibid.*, “Mary, Blessed Virgin, Queenship of” の項。
  - 28) 「神から人類に示された親切または慈悲心である。また，それを受けるに値しない者に，この親切心から与えられる贈り物である。」(『カトリック小事典』，「恩恵」の項) ; “the free and unmerited favour of God as manifested in the salvation of sinners” (*New Catholic Encyclopedia*, “Grace” の項)
  - 29) “Full of the bliss and glory of heaven, glorious ; glorified, transfigured, beatified, sanctified” (*MED* 2. [ a ] 初出 c1225 [ ? c1200 ] )
  - 30) *New Catholic Encyclopedia*, “Immaculate Conception” の項。